

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Determinants of Alcohol Consumption in Women before and after Awareness of Conception

和文タイトル: 妊娠に気づく前と後での女性の飲酒の決定要因

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Maternal and Child Health Journal

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 石塚 一枝

所属UC名: メディカルサポートセンター

目的:

妊娠中のアルコールは安全な量が確立されていないため、禁酒がすすめられているが、妊娠に気づかないで飲酒をしている、また、妊娠に気づいてからも飲酒をしていることが少なくない。そこで飲酒している妊婦の社会背景因子を調べた。

方法:

エコチル調査に参加した91,828人の妊婦を対象に、飲酒と関連する背景因子、社会経済状況、健康行動、心理的ストレスを調べた。パートナーの飲酒と妊婦の飲酒についても検討した。

結果:

妊娠に気づく前、気づいた後、それぞれ50%、2.8%の女性が飲酒していた。飲酒している女性の大半はお酒の量は多くなかった。妊娠に気づく前の飲酒は、高学歴、高収入であったが、高学歴と高収入の妊婦は妊娠に気づいた後の飲酒は少なかった。パートナーが飲酒している女性は妊娠に気づく前も後も自身は飲酒している妊婦が多かった。

考察:(研究の限界を含める)

多くの女性は妊娠に気づいてから飲酒をやめていた。妊娠に気づく前(多くの場合妊娠初期)は胎児の成長にとって重要な時期のため、飲酒のリスクを認識することが重要である。妊娠に気づいた後も飲酒を続けた女性は、社会的弱者で心理的ストレスが大きい傾向にあった。飲酒継続要因として、心理的ストレスが知られていることより、禁酒できないと感じている妊婦へのサポート体制構築は重要である。妊娠中の少量の飲酒の健康被害は確立されておらず、飲酒量の安全域を確立していくことが必要である。

結論:

妊娠に気づく前と後では飲酒する妊婦の社会背景因子は異なっていた。この知見は、アルコールの害を予防するための対策を立てるために役立つであろう。